

巻 頭 言

京都第一赤十字病院医学雑誌発刊に寄せて

念願の京都第一赤十字病院医学雑誌を発刊することを大変うれしく思うとともに、ご尽力された関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

当院は昭和9年に開設され、平成6年より足掛け20年かかった「平成の大改築」で設備は一新されました。そして、救急・災害医療、周産期医療を看板に、手術、がん診療、集中治療などの高度医療を展開し、業績を伸ばしてきました。そして、DPCⅡ群（特定）病院に4期連続して選ばれるなど、全国レベルの急性期病院に成長しました。

その中で、多くの学会発表や講演、論文作成など学術活動が活発になされてきました。その一つが初めての学会発表を披露しあう初期研修医の臨床研修報告会であります。その抄録集は年報に掲載しておりますが、発表だけでなく論文作成を望む声が多くなりました。そこで、若手スタッフの論文発表の登竜門として、京都第一赤十字病院としての学術雑誌、いわゆる医学雑誌の発刊の機運が高まりました。今回、教育研修推進室のメンバーのご尽力で、その夢が叶うことになりました。

記念となる初版には、17編の投稿があり、査読の上掲載されました。内容は、総説1編、原著2編、症例報告8編、臨床報告6編であり、部門としては、診療科8編、看護部4編、メディカルスタッフ5編であります。診療科だけでなく、多くの部門からの投稿があったことは望外の喜びであります。当院の学術的基盤が広く広がって来ていることの証であり、誇りに思う次第です。

はじめての論文作成においては、科学としての論理性・客観性を持つに至るため、当初の文章は何度も訂正され、仕上げるためには多くの労力を要します。しかし、達成感は忘れられないものとなります。また、査読においては、論文の論理展開、表現、筆者の思いにどれだけ幅を認めるかは、大いに悩むことになりますが、新たな知見に触れ共有できる貴重な機会になります。雑誌の編纂においては、学術への思いが込められます。装丁として、表表紙は奥山先生の作品が選ばれ、裏表紙には中出看護師の作品が採用されました。当院を背景にして、平和と知恵の象徴であるハトが天高く舞い上がっていく素晴らしい絵です。私たちも、医療人として志を高く持ちより高いところを目指していければと思います。

多くのスタッフの知と努力と感性の結晶が、「京都赤十字病院雑誌 第1号」となりました。これからも発刊を重ね、学術の登竜門として大きな役割を果たしていくことを願いまして、お祝いの言葉にさせていただきます。

平成30年11月1日
京都第一赤十字病院
院長 池田 栄人